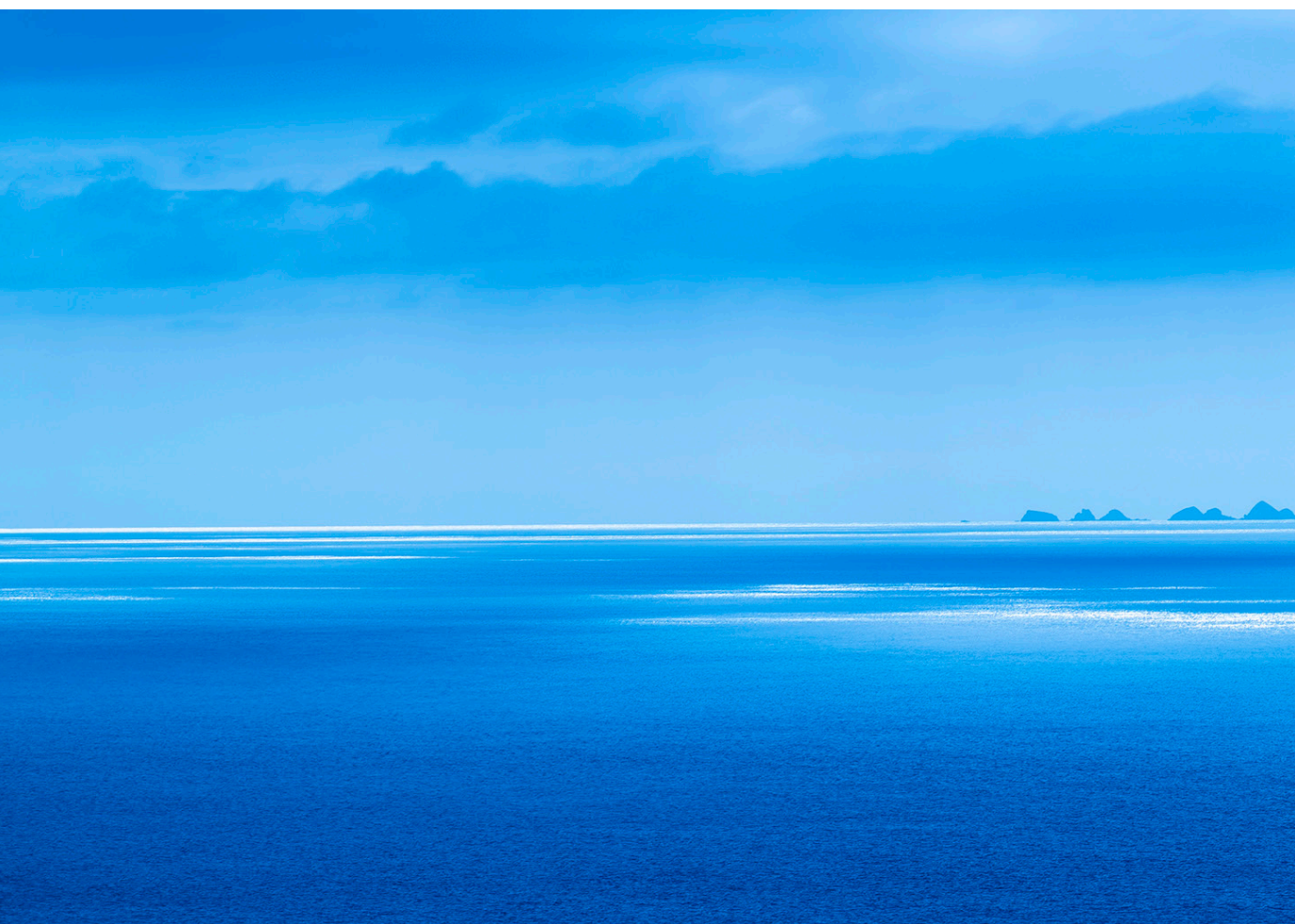


写人宮澤正明と
旅人立川直樹の
能登紀行

能登日記



アイラブノト

【白米千枚田】
しるよねせんまいだ。世界農業遺産に登録された「能登の里山里海」を代表する景観。日本の棚田百選に認定され、国の名勝にも指定されている。急斜面に、幾重にも段になり海へと広がる田んぼ。その数は全部で1004枚。夏には風にそよぐ緑の稲が青い空や海と見事なコントラストを生み出し、収穫期には黄金色の稲穂がしなやかに揺れ棚田を美しく彩る。(輪島市)

能登をはじめ訪れてから40年以上の時間が経つ。
最初は時計とは逆回りの方向で半島を一回りした。
一泊のドライブ旅行だったが、無限の時間が流れていった。
目に入る景色も聞こえてくる音も映画のようで
半島というよりも島のように感じられる能登……
ノトは僕にとってマジカルなアイランドで、
日本、いや世界のどこを捜しても見当たらない。
毎年のように能登を訪れ、深まっていく愛……
時空を超えた旅の扉が何十枚も用意されている。(立川直樹)

またのと里山空港もなく、北陸新幹線も走っていない時代。金沢から小松に向かうタクシーの中で、「珠洲に行っていたんですけど、いいところですよね」と話した時に返ってきた「日本のおふるさこですからね」という言葉が忘れられない。

世界が急速度に発展し、同時にいろいろなものが失われていく中で、景色だけでなく、そこに暮らす人々の心もたまたまいも変わらずに美しさと静けさが残っている奇跡とも言える唯一無二の半島が能登だと思う。だから多くの

人が魅せられる。交通手段が発達したおかげで、能登入りは飛躍的に楽になったが、そのタイムスリップ感が能登の魅力をより際立たせることにもつながった。

場所を移動するたびに、時間の位相が気持ちよくすすんでいく感覚。同じ場所でも季節と時間が変わると、驚くべき変化を遂げる場所が多いのも能登の特徴であり、海の音を聞きながら空の色が変わっていくのをぼんやりと眺めている時の幸福感は何物にも変え難い。魔法の旅の始まりだ。

Text=NAOKI TACHIKAWA
Photo=MASAAKI MIYAZAWA



Day
01

輪島市・珠洲市・穴水町・能登町

半島の東側に位置する内浦海岸にある九十九湾の美しさと静けさは言葉では表現できない。入江の中を船で巡っていくと、そこは海ではなく湖のようだし、心は太古の昔へと運ばれていく。九十九ある入江と中心にある蓬萊島。透明度抜群の海は鏡のように周囲の風景を映し出し、18世紀の半ばから世紀末にかけて「能登の名所旧跡探訪に生涯をかけて」「能登名跡志」の名著も残している太田頼資の「誠に風景仙境共ふべし」という言葉がびたりくる。その造形美はまさに神が創った『最高にして最上の芸術作品』と形容したくなるようなもので、完全に時間が停止しているような感覚に包まれるのは、神が宿っているからではないだろうか。

奥能登の海岸線をめぐり、
珠洲の海と祭り、
海辺の絶景に出逢う。

【九十九湾】
つくもわん／日本百景に選ばれた九十九湾は、穏やかな海、きれいに透き通った水の色など心落ち着く景観。湾の中心に位置する「蓬萊島」は鬱蒼としたスダシに覆われ、松や桂樹が繁茂し、あたかも蓬萊の画図を見るよう。大小さまざまな入り江からなるリアス式海岸で、能登半島国定公園にも指定されている。(能登町)

【春蘭の里（農家民宿群）】
山や川に囲まれた春蘭の里は、能登町旧山田村の民宿群一帯の名称。自然豊かな農村に溶け込んで、稲作をはじめ、山菜採り、キノコ採り、川遊び、まき割り、釜を使った炊飯、五右衛門風呂だき、水車を利用した精米など、普段できない生活が体験できる。自分で「採って、作って、食べる」農村体験を通じて、自然の恵みのありがたさを感じることができる。(能登町)



ここには日本人の
原風景がある。
日本のふるさとに
タイムスリップできる。

半島の山田川上流域にある春蘭の里は、平成8年からこもれびの中にひっそりと咲く春蘭をテーマに自然を守ろうという村おこしとその始まりだ。素晴らしいアイデアであり、それがひとつの形に結実している。春は山菜、夏はホタル、秋はキノコ、雪の降る冬……美しい自然の中に残された歴史のある建物は、高い志を持った能登の人々によって永遠の生命を手に入れ、それが訪れる人に「日本のふるさと」の暮らしをかたまりのリアルさで堪能させてくれる。そこに流れるのは能登時間。里山の恵みを受けた暮らしと人が受け継ぎ守ってきた自然の豊かさをこんなにシンプルに享受できる場所を僕は他には知らない。



【祿剛埼灯台】
明治時代にイギリス人の設計で造られた白亜の灯台。祿剛崎は、能登半島の最先端、ちょうど外浦と内浦との接点にあたるところで、「海から昇る朝日と、海に沈む夕陽」が同じ場所で見られることで有名。(珠洲市)



【ボラ待ちやぐら】
漁業用のやぐら。やぐらの上で終日、ボラ(魚の一種)の群れを見張り、網をたくるといふ原始的な漁法で、最盛期には町内に40基を超えるやぐらが立てられていた。1996(平成8)年秋を最後に、この漁法を行う漁師はいなくなったが、2012(平成24)年の秋に漁が再開された。(穴水町)

能登の味わいここに極む。
能登杜氏が醸す酒を飲む。
珠洲の塩を舐めながら
日本最古の製法で作る
枘酒に塩盛りをして、



左上：【道の駅 すす塩田村】
日本で唯一、珠洲市で受け継がれてきた揚げ浜式による塩づくりを今に伝える。美しい景色を眺めながらの休憩や揚げ浜式製塩体験ができる。(珠洲市)

上右：【宗玄酒造】
江戸時代中期1768(明和5)年創業。日本を代表する4大杜氏のひとつである、能登杜氏発祥の地として、限りなく水・原材料にこだわり続けている酒造。(珠洲市)

寒い冬、おいしい水と米というまい酒が出来る条件を兼ね備えている石川県には30を超える酒蔵があるが、その約半数が能登に集中している。そして、能登の造り酒屋のほとんどが海沿いの町にある。独自の酒造技術を伝承している能登杜氏の発祥の地として知られる宗玄酒造の前にも海があった。廃線になった鉄道のトンネルを利用した貯蔵庫の美しさにも目を奪われたが、江戸時代から続く、揚げ浜式製塩で職人、登谷良一さんが技と心と天日を経晶させて生み出した舌触りがなめらかでまろやかな味の塩をつまみに飲んだ大吟醸、玄心のおいしさは格別だった。



【恋路海岸】
波が穏やかで、悲恋の伝説が残る海岸。沖には弁天島が浮かび、ここから見附島(珠洲市)までの3.5キロの海岸線は、「えんむすビーチ」と呼ばれている。(能登町)

能登半島のドライブ。
美しい景色を追いかけながら
海岸線を走る幸福感、
はるか遠くに立山連峰が
現れてくる夢のような風景。

太陽系にある冥王星を数学的計算によって予知したことで知られる天文学者パーシヴァル・ローウェルは1889年5月に能登に旅行し、「NOTO」という紀行記を残している。その中には波心とつない入江のあちこちに建ち並ぶボラ待ちやぐらについてアラビヤ神話に出てくる「怪鳥ロックのようだ」と記述しているが、同じように美しい風景が広がる恋路海岸は昔このあたりが「小平次の里」と呼ばれていた頃に起きた悲恋物語が所以になっている。夢の記憶：

【見附島】
高さ28メートルの大きな岩がそびえ立ち、軍艦がこちらに向かってくるかのような大迫力。能登のシンボルでもあるこの島は、先端部分が突き出たその独特の見た目から別名「軍艦島」とも呼ばれている。(珠洲市)





能登では7月から10月にかけて
毎週どこかでお祭りがある。
「お祭り半島」とも呼ばれ
その数は約200にもなる。
能登の人々は祭りと生きていく。



あえのことを目撃した
古式と厳格さをとどめる奥能登の農耕儀礼。
田の神への畏敬の念から発生した儀式から
神の息づかいまでもが感じられた。

何十年前の9月、珠洲の蛸島キリコ祭りに案内され、ドテラと呼ばれる派手な衣装と長い前掛けをつけ、神勅の痕を模して顔を白塗りにした担ぎ手が担ぐキリコがほの暗い町内を練り回り、フィナーレに高倉彦神社の神楽殿で演じられた「早船狂言」を見た夜の記憶が本当に色濃く残っている。それは文字通り夢の世界に連れていかれる感覚だったが、今回の旅では石崎奉燈祭（p16）と宝立七ツキリコまつりを見ることになった。人々と神がひとつになり生み出された空間は、夢幻と形容するにふさわしいもので、打ち上げ花火を合図に、沖合に設置された松明を指してキリコが一斉に海に入っていく情景はフェリーニの映画のようだった。もし、かなうことなら夏から秋にキリコ祭りを追いかける旅をしたい。



【宝立七ツキリコまつり】
8月第1土曜日に開催。能登有数の高さ約14メートルのキリコを、車輪などをつけず約100人で担いで巡行する。見付海岸に勢ぞろいしたキリコが、打ち上げ花火を合図に、沖合20～30メートルに設置された松明を指し一斉に海に入る。波に揺らめくキリコと海上から打ち上げられる花火が描く、華麗な光の絵巻は素晴らしく魅惑的だ。（珠洲市）

【あえのこと】稲作を守る田の神様に一年の収穫を感謝し、五穀豊穡を祈る奥能登の伝承行事で、ユネスコ無形文化遺産にも登録。農家に代々伝わる方法で、あたかもそこに神様が実在するかのように風呂や食事でもてなし、「田の神迎え」（12月5日）、「田の神送り」（2月9日）の2回にわたり奥能登（輪島市・珠洲市・穴水町・能登町）の各農家にて執り行われる。柳田植物公園（能登町）内の「合鹿庵」では事前の団体予約で、あえのことの体験ができる。



田んぼに目印になる松の木をさし、「お迎えにあがりました。これから家の方にお連れします」と言葉を送り、2本の榊に宿った夫婦の神様を精一杯準備した料理でおもてなしをする「あえのこと」は小豆の御飯から尾頭つきのハチメ、自分の家で獲れたもので神様に成果をお見せする煮物の平椀盛りなどがまるでアート作品のように美しく並んだ料理と全体の所作を含めて、そのまま舞台作品になるくらいに神秘的で魅力的な神事だった。あえは饗（饗心）で、ことは事（神事）。奥能登には個性豊かな民俗芸能や祭礼が本当に多いが、栗の木で作られた一尺二寸の太い箸が12ヶ月を表していたりと、神の世界に連れていかれた。

Day 02

七尾市・輪島市・志賀町



周囲を海に囲まれている能登には太古の昔から現在までの長い年月波や風に浸食されて出来た自然の造形美と言える奇勝奇岩がたくさんある。見附島に機具岩：etc. それはアート作品と呼びたくなるような魅力を持っているが、特徴ある岩の形は信仰の対象とされたり、旅の目印や風景の一部として、『猫地獄』や『象の鼻』『ユツラ岩』などの愛称をつけられながら人々の生活の中に溶け込んできた。中でも岩盤が削られて出来た天然の洞窟がある能登金剛巖門は圧巻。現存する日本最古の木造灯台である旧福浦灯台を見ることが出来る遊覧船に乗って海岸線一帯29キロにわたって広がる景色を見ると、これは神の造形物ではないかと思えてくる。

多彩な文化が魅力の輪島、
能登の歴史を物語る
古刹・行事をめぐる。



【巖門】
がんもん／日本海の荒海が生んだ能登金剛の象徴。海に突き出た岩盤にある、浸食によって空いた洞門は、幅6メートル、高さ15メートル、奥行き60メートルあり、上には老松が生い茂る。鷹の巣岩や機具岩、碁盤島を巡る遊覧船が出ており、海上から見上げる巖門はまた違った迫力が味わえる。(志賀町)

輪島の一日は
朝市から始まる。
うまいものが並び
掛け声と笑顔が交錯する。
歴史ある風物詩だ。

千葉の勝浦、岐阜の高山と並び、日本三大朝市のひとつと言われ平安時代から千年以上の歴史を持つ輪島の朝市は、里山里海の食文化を味わえるワンダーランドだろう。朝8時を過ぎると、河井町にある通称「朝市通り」に並ぶ約2百軒の露店。売り手のほとんどが地元で漁業や農業を営む家のおばちゃんたちで「買ってって」という掛け声とあっけらかんとした明るさが雰囲気盛り上げる。値段を交渉して買うのも朝市ならではの楽しさだが、能登特産のいしる(魚鱈)に漬けた魚介を潮風にさらした一夜干しを焼いて食べることもできる。昭和33年には魚屋1軒、八百屋はゼロだったというのはいかに輪島の町が朝市に依存していたかを示すエピソードだが、輪島の朝市には底力がある。



【輪島朝市】
日本三大朝市の一つ。朝8時から朝市通りには、新鮮な海産物をはじめ干物や野菜、民芸品などを扱う露店約200軒が道の両側に所狭しと並び。露店を開く場所は、親子で何代も引き継がれている。値札はあまり付いておらず、地元の人との会話を楽しみながら値切りをするのも醍醐味。(輪島市)



【大本山總持寺祖院】
曹洞宗の大本山として1321
(元亨元)年に創建。1898
(明治31)年の大火で境
内は焼失、1910(明治43)
年に本山は移り祖院となる。
再建で山門、仏殿などがよ
みがえり、総ケヤキ造りの
風格ある山門や仏殿、法堂
などが、根本道場の威厳を
今も伝えている。座禅の体
験や、予約制で精進料理も
味わえる。(輪島市)



美の極致と言ってもいいかも知れない。また法堂の中の欄間に施された鑿山紹瑾禅師の一生を描いた精巧な彫刻は一級の美術作品とも言え、火灯窓と白壁のコントラストが美しい座禅堂などに目と心が奪われる。悦楽の時が……

**輪島市門前町にある幽玄な寺院。
総ケヤキ造りの山門や
仏殿、法堂が大本山の
威厳と風格を今に伝えている。**

高さ17m、間口20mにも及ぶケヤキ造りの巨大な山門を抜けて寺院内最大の伽藍である「法堂」を目にした身体がスーッと軽くなるような感じがした。それを「氣と呼吸の」だろうか。今から三百年以上前の春に總持寺を訪れた加賀藩士の浅加久敏は「能登浦伝」という著書の中で、往時の寺の様子を「境内の壮观たぐいなし。並木の桜は爛漫と咲き、見物なり。しだれの柳は青々として、心の濁りも清まりぬ」と記しているが、それぞれの建築物が庭園と美しい調和を見せている巨大な寺院は建築

右上：【機具岩】
はたごいわ／機織りの神様の伝説を生んだ夫婦岩。西向きに立つため、能登でも屈指の夕焼けスポット。ライトアップ時期には、夕陽を眺めた後、暗闇に浮かび上がる幻想的な風景が楽しめる。(志賀町)



右下：【旧福浦灯台】
日和山と呼ばれる断崖の上にある、現存する中では日本最古とされる木造灯台。1608(慶長13)年、福浦の日野資信(すけのぶ)がこの地で篝火(かがりび)をたき、夜の暗い海を航行する舟を導いたことが「灯台」の始まりといわれている。(志賀町)



七尾湾に面した海の温泉。
潮風を感じられる名湯が
世俗の垢を溶かしてくれる。
新鮮な山海の珍味と酒があれば
この世の天国だろう。



七尾湾に臨む日本屈指の人気温泉街、和倉はかつて海中から温泉が湧き出ていたので「涌浦」と呼ばれていたという。東で人気の「熱海」と同じなのがおもしろいが、約千年前に漁師夫婦が「湯気立つ海で傷を癒す白鷺の姿」を目にしたのが温泉発見の瞬間だったと伝えられている。評判が広まったのはそれから500年以上経ってからで、加賀藩2代藩主・前田利長が腫物で困った時に涌浦の湯を取り寄せて治療したのがきっかけだったというが、地名が「和倉」に改められたのも加賀藩の命によるものだったという。そしてかつては半農半漁のわずか7軒の集落だった涌浦も20を越す旅館や民宿に料飲店も並ぶ人気温泉街になった。塩分たっぷりの海の温泉は殺菌、保湿、美肌効果に優れているが、身体と心にも癒してくれる。

【和倉温泉】
七尾湾に面する石川県能登観光の拠点で、開湯から1200年の歴史を誇る北陸で唯一の海の温泉として、県内はもちろん全国的にも有名。良質な温泉は豊かな自然美や新鮮な山海の珍味とともに多くの人を魅了する。潮風を感じられる名湯で心身ともにリラックスしたい。(七尾市)



Day02

【御陣乗太鼓】
ごじんじょだいこ／輪島市名舟町に伝わる郷土芸能。1577(天正5)年、上杉謙信の軍勢が名舟に攻め込んだ際、鬼や亡霊の面に海藻の髪を振り乱しながら太鼓を打ち鳴らす奇襲を仕掛けて上杉軍を追い払ったとされ、これが今日まで祭りの行事として伝えられている。石川県無形文化財指定。(輪島市)



正確に打ち続けられるベリックな太鼓のリズム。そこに絡んで胴を猛烈な勢いで叩く男。その数は1人から2人になり、また不気味な仮面をつけ、髪を振り乱して飛び跳ねる男たちがうめき声のような掛け声を上げる。現在日本には1万5千ぐらいの和太鼓のチーム、グループがあるというが、御陣乗太鼓の存在感というのは完全に「和太鼓」という枠と概念を超えている。海域での狩猟を生業としていた海人の勇猛果敢な血の濃さが伝わってくるパフォーマンスを7月31日と8月1日に開催される名舟大祭の日はこの目で見てみたい。その夢を叶えたいと思う。

能登には、里山里海の自然の移ろいに合わせた暮らしと、独特の神仏への信仰が色濃く残っている。世界的に知られる御陣乗太鼓のパフォーマンスを見るとそれが理屈抜きでわかる。

品のある光沢と深い艶、しっとりとした手触り。漆の繊細な優美さは日本人の美意識を象徴している。漆器は英語で「JAPAN」と呼ばれる。

【輪島塗】
発祥については諸説あるが、応永年間(1400年頃)に「紀州根来寺(ねごろじ)の僧が輪島に来て、膳や椀に添加工した」ことが始まりとする説が有力。特色は塗りの堅牢さで、これは輪島の通称・小峰山から産出される「地の粉(じのこ・海成珪藻土)」を下地塗りに使用するため。加飾の沈金や蒔絵の技法にも優れ、日本を代表する漆器として高い評価を得ている。国の重要無形文化財に指定されている。(輪島市)

輪島塗に携わる職人さんの仕事ぶりを見学できる輪島工房長屋で「輪島塗の特徴と魅力って何だと思えますか?」と聞いたら即座に「工程の複雑さ。堅牢さです」という言葉が返ってきた。木地づくりから塗り、加飾までの行程は120以上。割れたり模様剥けてしまっても修理して代々使い続けられる輪島塗は何代も続く旅館や料理屋でも大切に受け継がれ、伝統的工芸品でありながら、現代の暮らしにもなじむモダンなアイテムも人気で、世代を超え、海外での人気も高い。北前船の時代からの先人の知恵と努力が息づく輪島塗は永遠を手に入れている。



七尾市・輪島市・志賀町



日本で唯一「車で走れる砂浜」である千里浜に初めて行った時、映画史上に残る名作「男と女」の名場面がフラッシュバックしてきた。ジャン・ルイ・トランティニヤンが息子を乗せてムスタングでドヴィルの海岸を走り回る格好の良さ：実際に千里浜の海岸を走った時の気持ち良さは最高だったが、全国から車好きならずとも千里浜を目ざして人がやってくるのもわかる。夏には海水浴場にもなり、夕陽の美しさも評判だが、ここは神が作ってくれたマジカルな場所なのだと思う。千里浜は夢の海岸だ。

【千里浜なぎさドライブウェイ】国内唯一、世界でも珍しい波打ち際を自動車でも走ることができるスポット。青空の下、打ち寄せる波のすぐ横を颯々とドライブ。映画のワンシーンのような光景を実現できる貴重な海岸。旅の記念に砂浜で車と海を背景にした写真撮影を。屋間は波打ち際に車を止めて、水遊びやバーベキューを楽しむこともできる。夕方、水平線に沈む夕日をゆっくりと眺めるのも素敵な時間の過ごし方だ。(羽咋市・宝達志水町)

砂浜に残された轍。
その美しさは、
ナスカの地上絵よろしく
宇宙から眺めることで
より鮮明になるのだろう。

波が静かな七尾湾はかきのかき養殖が盛ん。ここでは約60人の漁業者により「能登かき養殖漁業振興会」が設立され「能登かき」としてブランド化が進んでいる。七尾市中島町で30年ほど鮮かき養殖をしている木村功さんは、「七尾湾はかきのかき養殖に適している。コンクリートで護岸してないから山の水がそのまま流れ込む。魚付林として海岸沿いの林も大切にしている。そして他の所は吊す場所を毎年かえていくんだけど、ずっと同じ場所である」と語り、能登かきのおいしさを裏付けている。さらに、「海中からあげた後に選別して海に戻し、2週間ほど入れておくと身がしなむ」というふうにかげられている手間。湾に面した小屋の中にある焼き台で食べた焼きかきは、塩分濃度が濃く甘味がたっぷりでクリーミーな味に思わず歓声をあげてしまったが、大きな岩がきや2年ものも食べさせてもらって能登かきは料理法からワインや日本酒とのマリージュも含めて無限の可能性を持っていると思った。七尾湾にアイが浮かぶ景色もクリストのアート作品に近い美しさがあり、そこはかき好きの天国だ。春のかきも食べに行ってみよう。



【能登かき】小粒だが、肉厚の身と濃厚な味わいが特徴で、1つ食べるととまらないほどの美味しさ。プランクトンが豊富な七尾湾で養殖されるため、わずか1年で出荷可能。出荷時期は毎年10月から翌年4月頃で、焼きかきやかきフライ、かきめしなど、ボリューム満点のかきのフルコースもおすすめ。(七尾市・穴水町)



七尾市・羽咋市・宝達志水町・中能登町・穴水町



Day 03

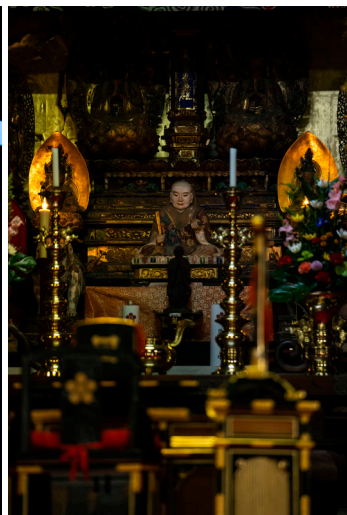
七尾市・羽咋市・宝達志水町・中能登町・穴水町



能登は海の幸から山の幸までおいしいものが獲れる。神からの授けりものとも言えるが、能登は間違いなくグルメ半島だ。そして自他ともに認めるかき好きで広島から宮城、厚岸...と、若い頃からずっと全国、海外でかきを食べ歩いてきた僕は七尾湾に面した「かき浜」で焼きかきを初めて食べた時にそのおいしさに言葉が失った。その後知ったのは羽咋の岩かき。金沢の今はもうない料理屋の女将が七尾湾のかきは小ぶりだからと言って2、3個をひとつにしてカキフライを作ってくれたが、おいしいかきを求める旅は終わらない。

能登の里海里山を感じ、
絶品の牡蠣に心躍る。
美味真心の言葉が浮かぶ。

能登には本当にたくさんさんの神社寺院がある。その中でも能登半島のつけ根に位置する氣多大社は飛び切りの神格を持ち、貴重な古文書も豊富に残り、初詣客も県内一を争う多さだという。正面の大鳥居から中に入ると、気の良さとともに別世界に入った感じになり、社殿の背後にある古代植生が繁茂する「入らずの森」の広大さが心を震わせる。そこで時の経つのを忘れて過ごした後、国道249号線に出て少し北上すると東側の松原越しに五重塔が見える。そこが名工によって建てられた素晴らしい建造物が境内に立ち並んでいる妙成寺。中でも加賀三代藩主利常の母・寿福院が願主となり建てられた五重塔の美しさは格別で、距離や角度によって全く違った魅力があるのがいい。ここでは幸福な迷い人になれる。能登のキリコ祭りの歴史や変遷は神社関係の記録にキリコについての記載がほとんどないのではっきりしないことが多いというが、それは氏子衆、町民側が神輿のお供をし、奉仕していたからだろう。いい話だと思う。能登では神々と人々がダイレクトに結びつき、それが祭りになっている。



写真下段【本山妙成寺】
700年以上前に建立された北陸の日蓮宗本山。境内には五重塔をはじめ、10棟の国指定重要文化財が並び、加賀藩前田家が何代にもわたって築いた藩屈指の文化遺産でもある。書院の前庭として作られた池泉観賞式の庭園も石川県指定名勝となっており、五重塔を借景とした縁側からの眺めは格別。(羽咋市)

写真上段【能登園一之宮 氣多大社】
創建2100年の歴史を持つ氣多大社は、奈良時代の歌人・大伴家持の歌集「万葉集」にその名が記されている。現在では、氣多大社の名から「氣」が多く集まる神社と言われており、御祭神の大己貴命(おこなむちのみこと)が縁結びの神様であることから、縁結びスポットとしても有名。(羽咋市)



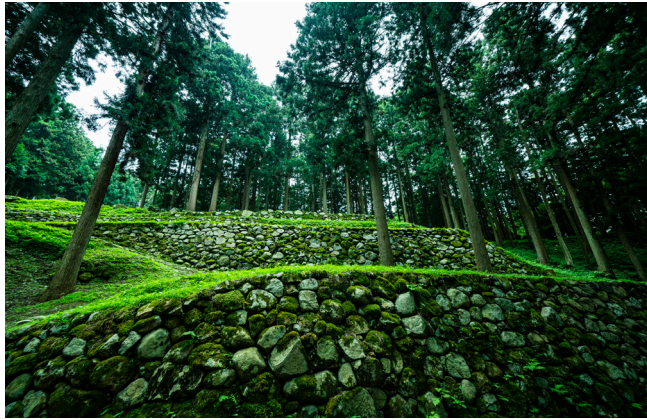
古刹と神輿を照らす
キリコの灯をたどれば、
能登半島の神々や原風景
そして多くの人々と
触れあう旅になる。

【石崎奉燈祭】

いっさきほうとうまつり／8月第1土曜日に開催。石崎町は七尾湾に面した活気あふれるこの町で、海の男達が一年に一度熱い血潮をたぎらせる。奉燈(キリコ)はおよそ高さ12～13メートル、幅3メートル、重さは2トンもあり、担ぐキリコとしては最大級。ねじり鉢巻き、さらしに地下足袋姿の約100人の若衆に担ぎ上げられ、「サッカサイ、サカサッサイ、イヤサカサー」と威勢のよい掛け声とともに町内を練り歩く。(七尾市)



【宝達山】
 ほうだつさん／JR七尾線
 宝達駅を降りて正面に見える能登半島の最高峰。山頂まで歩いて約150分、ドライブも楽しく、能登半島、北アルプス連峰を一望する眺望は絶景。秋の山頂付近では美しいブナの紅葉が楽しめる。(宝達志水町)



上：【七尾城跡】
 約170年間栄えた、能登の守護・畠山氏によって築かれた山岳城跡。険しい山岳部を巧みに利用し難攻不落といわれた山城だが、上杉謙信によって陥落。現在は、山頂まで車道があり、市街や能登島を望む展望台やハイキングコースなどが整備されている。(七尾市)

下：【雨の宮古墳群】
 眉丈山(標高188メートル)の山頂を中心に、4世紀の中頃から5世紀の初めにかけて造られた36基の古墳から成る古墳群。最も高い場所にある通称「雷ヶ峰」に位置する1号墳は、墳丘の長さが64メートルの前方後方墳で、県内最大規模を誇る。(中能登町)

その力は石動山に連なる見晴らしのよい山地に本丸跡がある七尾城跡に行った時にも感じられた。もう石垣や礎石などしか残っていないが、道標などに書かれた歴史を読みながら散策を楽しむと歴史の大ロマンの中にトリップできる。昭和の歌謡曲の歴史に残る名曲「古城」を歌った三橋美智也の独特のカン高い声が鳥の鳴き声と一緒に、ノスタルジックな世界へと連れていかれた。日本百名城に数えられているのにも納得だ。海拔300メートルというのに深

山幽谷に入り込んだような感じがするのもマジカルな能登ならではの感覚だが、その時空を軽やかに超えていく歴史の小旅行は雨の宮古墳群でひとまず完結する。この海拔も100メートルしかないのに、どこかに連れてこられた感や強力で、不動滝で修験者が歩いてきたような感じで僕は古墳の向こうから世界中に素晴らしい野外彫刻の作品を残し公園なども作っている世界的芸術家イサム・ノグチが微笑ながら歩いてくる幻影を見た。能登は歴史と時間が交信している。

国破れて 山河在り
 城春にして 草木深し
 野面積みの見事な石積みだが、難攻不落の山城を想起させる。七尾湾の絶景が心に沁みる。

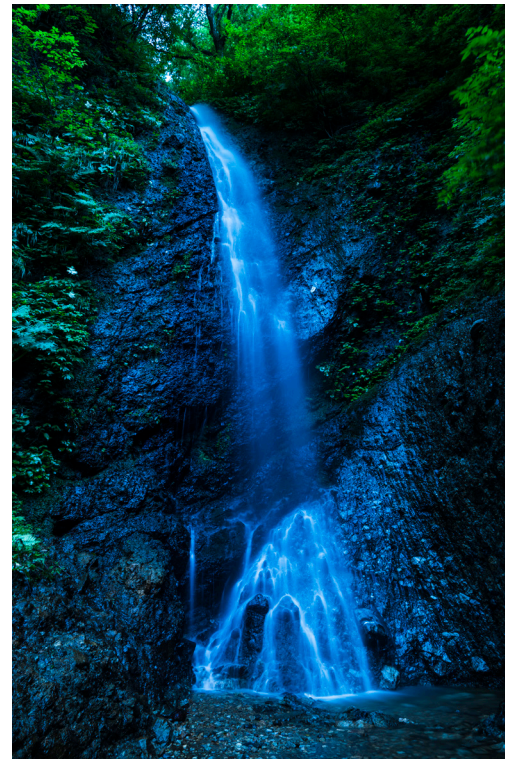
立山連邦から白山へと続く
 大パノラマを臨める、
 能登最高峰の山は
 今日もそこにある。

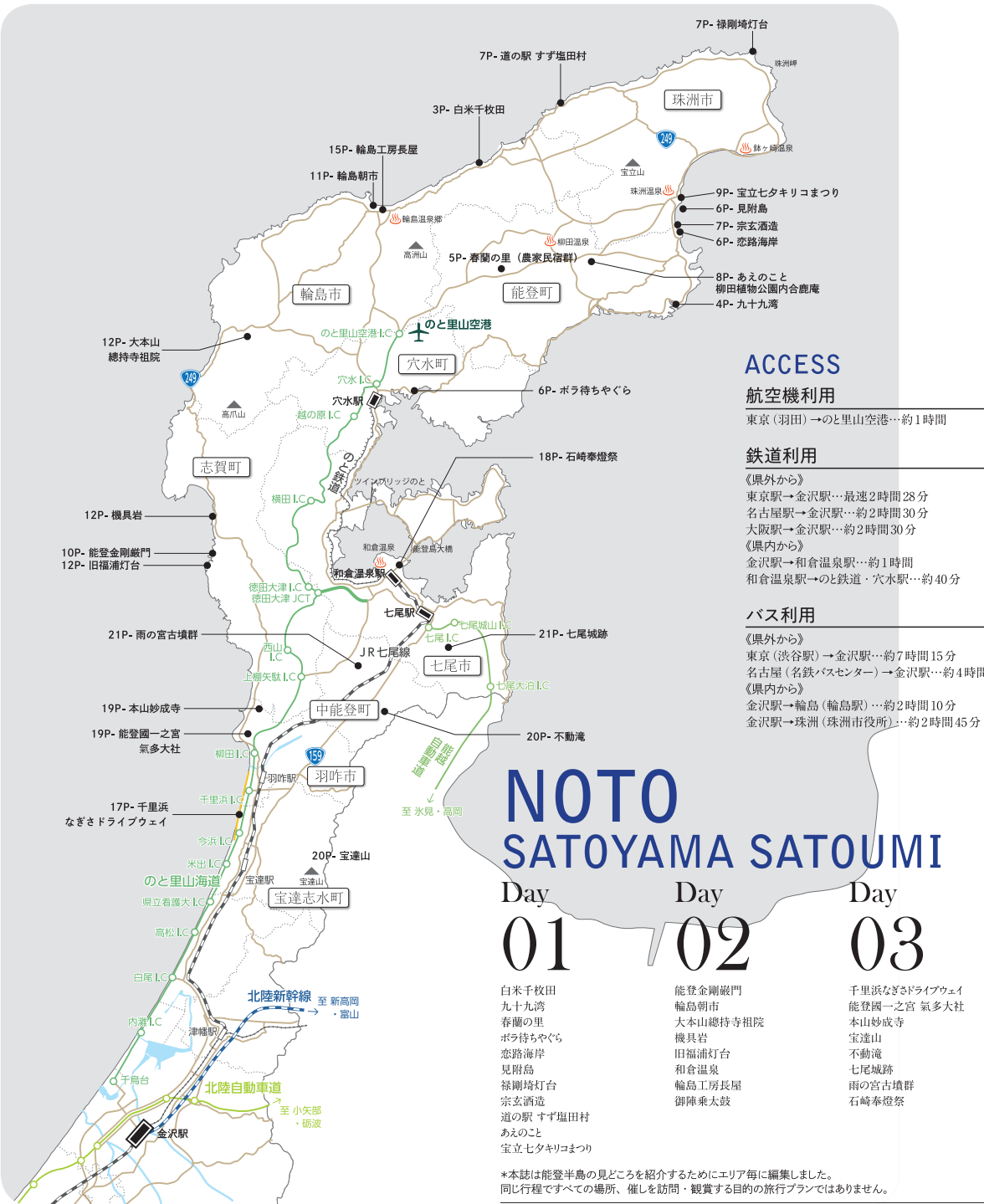
千里浜の撮影をする時に高い建物を探してその屋上に昇らせてもらった時に目の前に海の逆側に見えた宝達山はとても雄美で雄大だった。標高は637メートル。金や薬草、石灰などの産物が多くとれたので宝達山と呼ばれたというが、頂上付近まで車で上がれるので気軽に山頂からのパノラマを楽しめる。そして能登はドライブにもっとも適した半島だと思う。いい音楽をB

GMにして走ると景色の中に入っていくような感覚も味わえるが、宝達志水町から七尾市に向かう159号線もいい道だ。その途中にある不動滝も魅力的な場所。滝のそばに立つと、清涼感とともに不思議なタイムスリップ感を味わえる。滝の向こうから山の修験者たちが歩いてくる幻。能登の山には訪れる人々を魔法にかける霊力がある。



【不動滝】
 井田の三穂の峰より流れ落ちる約20メートルの滝で、泰澄大師が開いたと伝えらる。本来は「熊野滝」という名だったが、滝つぼ横に不動尊が安置されていることから不動滝と呼ばれるようになったといわれ、近くには不動堂も建てられている。眼病、頭痛に霊験があるとされ、7月5日の滝開きには多くの信徒が集う。(中能登町)





2020年3月20日作成
 発行 能登ふるさと博覧催実行委員会（石川県観光企画課内）
 住所 〒920-8580 石川県金沢市鞍月1丁目1番地
 電話番号 076-225-1542
 文：立川直樹／写真：宮澤正明／デザイン：T.break
 （参考図書）『ニッポンを解剖する！金沢 能登図鑑』実業之日本社刊／『石川「地理・地名・地図」の謎 意外と知らない石川県の歴史を読み解く！』JTBパブリッシング刊／『能登雑々 百景百話』中日新聞社刊／『能登の里人ものがたり 世界農業遺産の里山里海から』アットワークス刊／『ふるさと加賀・能登～身近な地域の地理巡検～』東京法令出版刊
 ©Masaaki Miyazawa 2020 Printed in Japan

宮澤正明◎みやざわまさあき
 写真家・映画監督・ビジュアルディレクター
 1960年東京都生まれ。1985年、赤外線フィルムを使った作品「夢十夜」で、ニューヨーク ICP インフィニティアワード新人賞を受賞。2005年から、伊勢神宮第62回神宮式年遷宮の正式な撮影許諾を得て撮影を開始する。2015年、初監督を務めたドキュメンタリー映画「うみやまありだ〜伊勢神宮の森から響くメッセージ」で、マドリード国際映画祭・外国語ドキュメンタリー部門「最優秀作品賞」他の2冠に輝く。俳優、女優、アーティストの写真集は150冊を超え、広告・PV・CM撮影など、活動は多岐にわたる。

立川直樹◎たちかわなおき
 1949年生まれ。70年代の始まりから、メディアの交流をテーマに音楽、映画、美術、舞台など幅広いジャンルで活躍するプロデューサー・ディレクターとして高い評価を得る。分野はロック、ジャズ、クラシック、映画音楽、アート、舞台美術、都市開発と多岐に渡り、音楽評論家・エッセイストとしても独自の視点で人気を集める。『セルジュ・ゲンズブールとの一週間』、『何気ない事を大切にする仕事術』、『父から子へ伝える名ロック100』、森永博志との共著による『ジャングリラの予言（正統）』『すべてはスリーコードから始まった』、『ザ・ライナーノーツ』など著書も多数。

ACCESS



【白米千枚田】輪島市白米町ハ部 99-5
 TEL 0768-23-1146（輪島市観光課）
 のと里山空港から車で約35分
 駐車場：51台



【九十九湾】鳳珠郡能登町市之瀬
 TEL 0768-62-8526（能登町ふるさと振興課）
 のと里山空港から車で約40分



【春蘭の里（農家民宿群）】鳳珠郡能登町宮地
 TEL 0768-76-0021
 のと里山空港約15分、（公共）穴水駅、の
 と里山空港からの送迎あり



【ボラ待ちやぐら】鳳珠郡穴水町根木、新崎、
 中屋、内浦地内
 TEL 0768-52-3790（穴水町政策調整課）
 のと里山空港から車で約20分、（公共）穴水
 駅より北鉄奥能登バス乗車、「中屋南口」下車、
 徒歩約3分（中屋ポケットパーク）

ACCESS

航空機利用
 東京（羽田）→のと里山空港…約1時間

鉄道利用

《県外から》
 東京駅→金沢駅…最速2時間28分
 名古屋駅→金沢駅…約2時間30分
 大阪駅→金沢駅…約2時間30分
 《県内から》
 金沢駅→和倉温泉駅…約1時間
 和倉温泉駅→のと鉄道・穴水駅…約40分

バス利用

《県外から》
 東京（渋谷駅）→金沢駅…約7時間15分
 名古屋（名鉄バスセンター）→金沢駅…約4時間
 《県内から》
 金沢駅→輪島（輪島駅）…約2時間10分
 金沢駅→珠洲（珠洲市役所）…約2時間45分



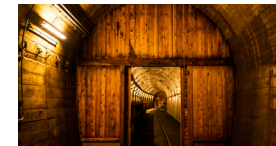
【恋路海岸】鳳珠郡能登町恋路
 TEL 0768-62-8526（能登町ふるさと振興課）
 のと里山空港から車で約40分
 駐車場：約20台



【見附島】珠洲市宝立町鶴飼
 TEL 0768-82-7776（珠洲市観光交流課）
 のと里山空港から車で約40分、（公共）金沢
 駅西口または穴水駅から珠洲特急線乗車、「珠
 洲鶴飼」下車、徒歩約17分
 駐車場：200台（見付公園駐車場）



【緑剛崎灯台】珠洲市銀樓町
 TEL 0768-82-7776（珠洲市観光交流課）
 のと里山空港から車で約60分
 駐車場：106台（道の駅狼煙駐車場）



【宗玄酒造】珠洲市宝立町宗玄 24-22
 TEL 0768-84-1314
 定休日：日曜日
 ※観覧席は要予約（1月～11月）
 のと里山空港から車で約40分、（公共）穴
 水駅から北鉄奥能登バス乗車、「宗玄」下車、
 徒歩約2分



【道の駅すず塩田村】
 珠洲市清水町1-58-1
 TEL 0768-87-2040
 のと里山空港から車で約45分
 駐車場：50台



【あえのこと】奥能登（輪島市・珠洲市・穴水町・能登町）
 招き毎年12月5日、送り毎年2月9日
 TEL 0768-76-1680（柳田植物公園）
 のと里山空港から車で約25分（合鹿庵）



【能登金剛巖門】羽咋郡志賀町富来牛下巖門
 TEL 0767-32-1111（志賀町商工観光課）
 のと里山海道西山ICから車で約20分
 駐車場：50台



【輪島朝市】輪島市河井町朝市通り
 TEL 0768-82-1111（志賀町商工観光課）
 のと里山海道西山ICから車で約20分
 駐車場：朝市駐車場（8時30分～正午、乗用
 車300円）



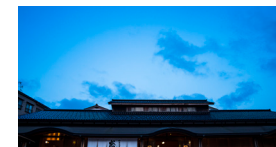
【大本山總持寺祖院】
 輪島市門前町門前1-18甲
 TEL 0768-42-0005
 のと里山空港から車で約30分、のと里山海
 道穴水ICから車で約20分
 駐車場：50台



【機具岩】羽咋郡志賀町富来七海
 TEL 0767-32-1111（志賀町商工観光課）
 のと里山海道西山ICから車で約20分
 駐車場：5台



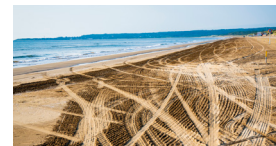
【旧福浦灯台】羽咋郡志賀町福浦港
 TEL 0767-32-1111（志賀町商工観光課）
 のと里山海道西山ICから車で約20分、（公共）
 福浦バス停から徒歩5分
 駐車場：10台（観光駐車場）



【和倉温泉総湯】七尾市和倉町ワ部 5-1
 TEL 0767-62-2221
 定休日：毎月25日
 能越自動車道和倉ICから車で約7分、（公共）
 和倉温泉駅から北鉄能登バス乗車、「和倉温
 泉」下車、徒歩約1分
 駐車場：90台



【輪島工房長屋】輪島市河井町 4-66-1
 TEL 0768-23-0011
 定休日：水曜日（祝日は営業）
 のと里山空港から車で約20分、（公共）金沢
 駅西口から輪島特急線に乗りし「輪島マリン
 タウン」下車、徒歩約4分
 駐車場：朝市駐車場（徒歩3分）



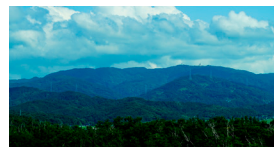
【千里浜なぎさドライブウェイ】
 羽咋市千里浜町～宝達志水町今浜
 TEL 0767-22-1225（石川県羽咋土木事務所）
 のと里山海道今浜IC、または千里浜ICから
 すぐ



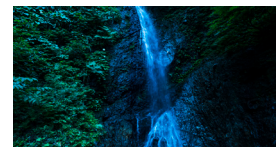
【能登國一之宮 氣多大社】羽咋市寺家町ク1
 TEL 0767-22-0602
 のと里山海道柳田ICから車で約5分、（公共）
 羽咋駅から北鉄能登バス乗車、「一之宮」下車、
 徒歩約5分
 駐車場：あり



【本山妙成寺】羽咋市滝谷町ヨ1
 TEL 0767-72-1226
 のと里山海道柳田ICから車で約10分、（公
 共）羽咋駅から北鉄能登バス乗車、「妙成寺口」
 下車、徒歩約10分
 駐車場：80台



【宝達山】羽咋郡宝達志水町組屋町
 TEL 0767-29-8250（宝達志水町企画振興課）
 のと里山海道米田ICから車で約20分
 駐車場：81台



【不動滝】鹿島郡能登町井田
 TEL 0767-74-2806（中能登町企画課）
 のと里山海道柳田ICから車で約25分
 駐車場：約10台



【七尾城跡】七尾市古府町、古屋敷町、竹町
 入会地大塚1-1、2-4、15-2
 TEL 0767-53-8437（七尾市教育委員会スポー
 ツ・文化課）
 のと里山海道上棚矢駄ICから車で約30分、
 能越自動車道七尾城山ICから車で約10分
 駐車場：10台



【雨の宮古墳群】鹿島郡中能登町西馬場
 TEL 0767-72-2202（雨の宮能登王墓の館）
 のと里山海道上棚矢駄ICから車で約10分
 駐車場：約20台

能登ふるさと博開催実行委員会

